

議事録

項 目	水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 (第8回 アクティビティ・マネジメント部会)	
協議日時	令和元年(2019年)7月5日(金) 14:00~	
協議場所	熊本市役所本庁舎 11階会議室	
協議者 (敬称略)	【アクティビティ・マネジメント部会】 熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター准教授 星野 裕司 (部会長) 公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司 キリンビール(株)九州統括本部 南部九州支社 熊本支店 業務部 担当部長 宮脇 雅人 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一 協業組合江津湖観光 マネージャー 江藤 啓貴 一般社団法人 熊本市造園建設業協会 理事 松本 秀和 一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 熊本市総合体育館・青年会館 館長 堀口 浩 水前寺活性化プロジェクトチーム 事務局 楠本 英雄 幹事 関係課、事務局	
<議題> (1) これまでの主な意見 (2) 具体的取組みについて (3) その他 【議事録】 ●環境部会と一緒に議論をしないとなかなか政策にのっていかないなというところで合同部会を始めたんですけど、一方で逆に言うと、部会としての意見を出すということが最近少なくなっていたので、これからまた8月末に協議会がありますけど、私達のチームとしての考え方とか何を大事にすべきかとか、そこらへんをみんな協議して、もう一回議論して臨みたいということなのでこの会をやっています。今日は何を決めるということではなく、また宿題があるということではないですけど、今までの議論を振り返って私達としてどんな意見をいうか、どんな立場をとるかとか、私達の役割ってなんなのかそこらへんを皆さんに協力してもらって、共有出来たらいいなと思っています。ということで議題が(1)(2)とありますが、資料の説明これまでの振り返りをして頂いて、その後フリーでディスカッションしたいと思います。じゃあお願いします。(星野部会長) ●～資料の説明～(事務局) ●これまでの主な意見と、具体的な取組みについてというのが今の説明でしたが、いろんなご意見なりこれからに向けていろいろと話が聞けたらなと思います。今紹介あったことで何か補足するような、こんな議論もあったんじゃないとか、なんかそういうところからでも何かご意見があればということから始めようかな。昔過ぎて忘れてしまっているかな。(星野部会長)		

●私的には江津湖は毎日 365 日見ているわけですけど、上江津で遊んでおられる方と、下江津で遊んでおられる方はちょっとバラバラで、上から下までの交通手段がないんですよね。歩くにしても相当距離があるし、船で渡し船みたいなのを作ってあげてもいいのかなと。とですね、遊ぶと言っても何もありませんよね、事実。ちょっと景観がきれいとか、上の方だったら水がきれい。下の方だったら、広木がちょっと空間があるとかいうくらいで、だからポイント的に上江津のもっと先の図書館側の方とかは、歴史がある庭園とか歴史がある料理屋さんとかが昔あったんで、その再現とかですね、歴史文化みたいなやつのポイントを作った方がいけるのかなと、下だったら広木の広いところに健康器具を置くとか、もうちょっとこういう遊び方があるよとかいうことを教えたり、今ヨガ教室とか芝生の上でやっているんですよ。ここに行くメリットとかポイントとか、楽しみみたいな場をつくってみてはどうかとは思いますが。ほとんどの方が散歩とか、その利用が大半ですよ。（松本委員）

●ヨガ教室とかも結構固定客はあるのですか（星野部会長）

●毎月やっていますので、だいたい固定された人達ですね。（松本委員）

●何割かは最初の人とかというのが常にいるような感じでしょうかね。（星野部会長）

●まあ、知り合いが知り合いを呼んでくるとかですね。（松本委員）

●ひとつはポテンシャルが活かしきれていないということですかね（星野部会長）

●特に上江津はもったいないのかなと思います。（松本委員）

●上江津はもったいない。ポテンシャル、まあでもそれってずっと前から一貫していますよね。このチームとか。それがなかなかですね。（星野部会長）

●合同部会になりますと、そういったご提案をすると、水際はやっぱり大事なところという意見が。（事務局）

●私の言っているのは芭蕉園とかホテルのおる場所じゃないんですよ。もっと上ですよ。（松本委員）

●私はいいと思います。そういったポテンシャルかなりあるんですけど、今活かしきれていない。もうちょっと顕在化といいますか、ちゃんとした方がいいんじゃないかと。前回とか歴史も振り返ってお話をしていますけど、ずっと過去から自然と人がうまく共存共生して江津湖が成り立ち、使われてきたということがありますので。今後も、時代の変化に合わせていく必要があると思います。（事務局）

●だから、下江津の今、離れ小島の森みたいになっている所は細川さんの回遊された休憩場所

みたいなところがあった。(松本委員)

- 昔は、お店もあったんでしょ？(星野部会長)
- はい。トイレの跡とかもあります。そういうのも、また利用できるんじゃないかなと思います。(松本委員)
- だから例えば環境チームとの議論の時も、なんか、一緒くたに議論し過ぎて感じがしますよね。「水面を使いたい」というと「全部使うのか?」「ダメだ」みたいな。そこらへんを丁寧にゾーニングというか、そのへんをベースに議論していかないとなかなか共存していかない感じがしますよね。あと時期のゾーニング(星野部会長)
- ここは交通アクセスが悪いのと、駐車場が少ないですよ。庄口公園から真ん中にドーンと通すとか、熊本駅からそのまま来られるとですけどね。電車の話は昔あったと聞いたんですよ。(松本委員)
- 環境の人は、湧水、庄口公園が大事と言いますね。(星野部会長)
- 動物園までそこに来らせようとしていたらしいですね。(松本委員)
- 今のご意見なんかもそうですが、場所ごとの丁寧な資源発掘みたいなゾーニング、その作業をもうちょっとしていかないと、というところがありますよね。そういうのってこれからやりますって感じになるのかな？(星野部会長)
- そうですね。ゾーニングも以前、たたき台をご提示はしていますが、実際に今ある資源が、良いものがどこにあって、それを活用していこうという、そのへんの議論がまだできていませんので、それをお示しした上でご意見を伺った方が良いかと思います。(事務局)
- 他はどうですか、感想等を含めて。(星野部会長)
- 確認しておきたいことがあります、動植物園がこれからどう変わっていくのかということ、P-PFIのサウンディングが今どの程度進んでいるのかお聞きしたい。(若松委員)
- 昨年、サウンディングということで江津湖公園全体でお聞きしています。業種などを絞らずに「江津湖の中でどういった事業ができるのか」そういったご提案をいただいているのが去年の段階です。今まだ、そういったご意見を頂いているという段階でして、ほとんどが動植物園の中のご意見だったんですね。園内でカフェをやった方がいいんじゃないとか、園内で遊べる遊具と何かを組み合わせた方がいいのではないとか、そういったご提案が大半でした。園は園で10年後に開園100周年っていうのを迎える予定にしていますので、それまでもリニューアルしたいと思っていますし、我々は今、緑化フェア推進室というところなんですけど、そのメイン会場として動植物園を使っていきますので、だいたい3年後なんで

すけど、それまでも植物園エリアはある程度手は加えていきたいなと思っています。現在の植物園は、前回の緑化フェア、もう30年以上前の緑化フェアの時に整備したもので「魅力の低下」とかがあるんですけど、その中で「何をサウンディングの結果と組み合わせられるのか」というのを検討していきながら、ある程度見えた段階で具体的に公募に向けてのサウンディングっていうのをやる必要があると思っています。今は、その検討途中というような段階でございます。(事務局)

- サウンディングは、動植物園内がほとんどで、その他のことはあんまりなかったのですか。(星野部会長)
- その他は、広木の所でキャンプができた方がいいんじゃないかとか、あとは動植物園の南門側のあたりなんですけど、あそこに水上のイベントができるようなステージがあって、そこを船とかで動けるようにしたらいいんじゃないかとか、それこそ先ほど頂きました庄口公園のところですね、電車通りから動植物園までかなり距離がありますのであそこをどうにか何か乗り物を走らせるとかそういったものもあった方がいいのではないかといいご意見は頂きました。ただ公設なのか、誰がするのかまだ詰められていなくて、アイデアレベルといったところですよ。(事務局)
- 動植物園のリニューアル計画はどちらかというと動物園ですね。(星野部会長)
- 動植物園全体ですね。まだそのあたりもですね、これからというところではあります。(事務局)
- 確かに財政も厳しくなって、民間の活力もうまく使いながらというのが、この部会の一つのテーマであったかと思います。(星野部会長)
- 最後の紙の裏側の紫のところ、「民間活力の導入」というのが上の方にあります。都市公園法も改正されてP-PFIだったりとか、民間さんとのコラボによります老朽施設の更新とかですね。そういったものが今まではご議論として頂いています(事務局)
- これまでの集まった意見とか、最初にあがっているというお話を頂いて、どのページをめくっても「カフェ、レストラン」という文字が出てくるので、ここにあがってくるものは公共設備の改修リニューアルもそうですし、水面のアクティビティの活用もそうだと思うんですけど、全部やったほうがいいことなんですけど、まず一個やることで、P-PFIの条件に江津湖の水面の活用を考えていくとか、そういった言葉で付けつつ、やはり最初の点をうっていかないと何も始まらないような気がしていて、これだけ多くの皆さんが出席して会を走らせているということは、とにかく多様な意見がある中で、どういうふうに進めていくかという、それで、これだけ多くの人に関わっていると思うんですけど、一番多い意見が多分「カフェ、レストラン」というところなので、であればこの部会では「カフェ、レストランをやる」というのを、仮に決定して、それを環境部会に何を説明して、どうやっていくのか、どの事業者がやるのかというふうにもう議論を詰めていったほうが、もう一年以上やっていますよね。

これは、けっこうズーッと平行線で話をしているような気がするので、一旦これで決めて、じゃあ「カフェ、レストラン」をやれるにも、色々なところをくぐっていかないといけないと思うんですけど、で熊本市が「ダメです」とか、環境の観点が「ダメです」とかなったら、その時また考えればといいと思うんですけど、一回絞って話しした方が話す方もおもしろいと思うんですけど。(若松委員)

●でも、それにはされる方をまず見つけないことには。(松本委員)

●はい、そうですね。(若松委員)

●この前来られた業者の人たちと話をしたけど、「江津湖では集客はできない」とおっしゃってましたね。「だから動物園側にしたい」という。動物園には人間がいるので、採算が取れないらしいです。どう考えても。(松本委員)

●その理由はなんですか？(星野部会長)

●人間がないからです。全体ではいるんですよ、事実は。ただ集中してはいないということですね。(松本委員)

●「集客の機能を持つものをつくる」というふうな感覚ですかね。(若松委員)

●そうです。(松本委員)

●江津湖のもっているコンテンツと集客がなくて、商業的な施設が成り立たないとすれば、そこまで含めた部分ということですね。(若松委員)

●それでしたら、カフェをポンと置くのではなくて、ということですね。カフェを置くとして、営業が成立するためには、このくらいの複合的な機能がないとダメだとか、集客力がないとダメだとか。(星野部会長)

●今、若松さんがおっしゃったように、皆様のご提案と言いますか、ご意見をたくさん頂いたところです。ただ、計画を今年度末で策定して、来年度から実施に向かっていきたいので、ある程度絞り込みの時期をですね、もう来たのかなと思っていますので、カフェも一つあるかと思えますし、その他のいろんな利活用、環境保全も一緒なんですけど、全部が全部いきなりできるわけがないと思うんですよ。なので、何か論点と言いますか、いくつか観点を絞っていくのは確かに大事なのかなあというふうに思います。そういった意味で、やるものについて具体的にもうちょっと深堀をしていくという議論を始めたほうがいいのかなと思いません。(事務局)

●単純に「食を提供する」というよりも、自然環境のことを考えたメニューという考え方も、もしかしたら出来るかもしれないですね。そこを、どんなやり方がいいんだろうと詰めてい

くとか、どんな事業者がいいんだろうと詰めていったり、そっちの方にしていっての方がいいんじゃないかなと。(若松委員)

- 「例えば」というような感じで少し詰めていって、出てくる課題とかを共有しながらということですね。だから計画づくりは計画づくりでして、並行してそういう議論をしていくということですかね。計画づくりはそのままのるんですか(星野部会長)
- 計画は、基本方針まである程度見直しをして決まっているんですけど、具体的な施策は、まだ羅列してあるだけで、まだこれの実現性とかの議論は出てきてない。誰がやるというものまだない。それらを詰めてある程度、計画の最終目標地点をどこにおくかにもあるんでしょうけども、計画つくって絵に描いた餅で終わるというのではなくて、ある程度実行性のある計画にしていきたいと思っていますので、もうちょっと、いくつかポイントを絞りながら深堀をしたいなというふうに思っています。この期間の中でどこまでやれるかということもありますけど。(事務局)
- カフェとか、P-PFI をどこで展開できるか、みたいなものが一番インパクトがあって、複合的なのですかね。江藤さんは、いちおうカフェやっているじゃないですか。どうですか(星野部会長)
- やっぱり平日はさっき松本委員がおっしゃったように人がいないですね。土日が、やっぱりうちもメインなんですけど、土日はレジャーに来られた方がいっぱいいらっしゃるの、土日だけで、例えばカフェだけして、うちはいろいろやっているからあれですけど、カフェだけして採算がとれるのかと考えたらちょっとどうかと思いますね。江津湖に来る人というのが何をしに来るかという、やっぱり家族で来て、レジャーで楽しむというのが多いと思うんですね、ここに来る人達というのは。だから、江津湖 Living でメリットがあるんですけど、あの時の江津湖の回遊性はすごいと思います。あそこで一個イベントがあるだけで江津湖全体に人が流れているのをずっと感じます。全然違います。うちの駐車場にまでお客さんが停めにいらっしゃいます。(江藤委員)
- すごいもん駐車場。(星野部会長)
- うちでちょっと買い物をして、それから会場に行こうかと。イベントの集客性っていうのは、けっこう大きいのかなと思います。(江藤委員)
- 江津湖 Living は今年初めて行ったんです。いいなあと思ったんですが、こういう議論をしていて、さらにいいなあと思ったのは、意外と小さくやってるんだなと思って。コンパクトにやっていますよね。だから環境の方々とも共存が出来るのかなと思ったけど、あそこで十分江津湖に人が回っている感じはある、ということですね。(星野部会長)
- そうですね。(江藤委員)

- だけど、あれだけの駐車場の整備は大変だからですね。(松本委員)
- 駐車場問題は、それは市の公共交通に頑張ってもら。だって駐車場を江津湖で増やすというのは無理でしょう。(星野部会長)
- 周りに場所がないこともないですけど。(松本委員)
- すぐ取り組めるのは、複層化することでしょうね。それがいいか悪いかはまた別で、議論になるとは思いますけど。(事務局)
- 駐車場としていいかわからないけど、今周辺の駐車場として使っているところが空いたりとか、するのでしょうかね(東部まちづくりセンター)
- 試算の方がきていないので、私が詳しく話せませんが(事務局)
- であればあそこの薬局の裏手とか、あの辺とかがあるよなとちょっと思ったんですけど。(東部まちづくりセンター)
- あそこからだちょうど中江津くらいになるんで、どっちに行っても遠いんですよ。(松本委員)
- 駐車場を増やして、自家用車で来て頂く人を増やすのか、公共交通からの江津湖へのアクセスを良くするのかとか。(事務局)
- それは結論を言ったら後者でしょう。(星野部会長)
- 実際は自家用車マイカーで行くというのが多いんでしょうけど。(事務局)
- 家族で行きますからね。熊本で家族で移動ってまずマイカーってなりますよね、市民レベルでは。でも、そこは頑張らんといかんでしょうけどね。(星野部会長)
- 自転車では行きづらい感じですか？(若松委員)
- 知っていれば行けるんですけど。(星野部会長)
- 学生だったら行けますね。(松本委員)
- とにかく距離以上にすごく奥というか、住宅街の裏とかにもあるのでどう行ったらいいかわからないとか、入口がわからないとか。(星野部会長)
- 分かりづらさはありますよね。どっから入ったらメインになるのか。構造がよく分からない

ですよね。(宮脇委員)

●表玄関が無いというのは良いことなんだけど、意外と使いづらいという感じになってるかもしれないですね。本当のことを言うと、このアクティビティ部会は、駐車場がらみで言うともう少し周辺のまちづくりというか、まちをどうするかみたいなものも主題にしないといけないかなと思います。江津湖の中だけではなくてですね。まちづくりというか、例えばカフェができて人が来て。(星野部会長)

●お店をやっている人だったら来て欲しいけど、民家だったらたぶん真逆なことを言われるだろう。(松本委員)

●それはそうですけどね。(星野部会長)

●我が家の庭の前を歩いて行かれるからですね。(松本委員)

●だからそういう意味では、共存するとすると、ちゃんとお客さんが来る所と来ない所をもっと明確にするようなゾーニングをしなきゃいけないし。じゃあ、あるいは江津湖が賑って周りも儲かるみたいにならないとうまくいかないから、本当は周りにもお店ができていくというのが理想は理想だと思うんですけど。となるとある程度周りにボワッと動くような方が理想的な形にはしていくかもしれない。最初はね、うるさいとか、知らない人が動き始めると嫌だというのはあるかもしれない。本当そうことを議論したいなと思うんですけど。他にもとりあえず、まず思いついたことを言い合いませんか。(星野部会長)

●夜間のライトアップとかはダメなんではしょうか？(松本委員)

●そういうのも考えていきたいと思います。まず、問題として江津湖は今、全体が水銀灯です。水銀灯も生産が中止になっているので換えていかなければならない。LED化していきたいと思いますが、その中で部分的にもライトアップとかも必要かな。LEDでは色んな調光出来ますし。(事務局)

●湖面に映るのがきれいなんですよ、夜は。(松本委員)

●それもゾーニングになってくると思うんですけど。例えば動物からいくと、あまり照らすと難しいというのもありますし、特にホテルとか季節の問題もあるだろう。(事務局)

●まあ場所次第でしょうね。(松本委員)

●ただライトアップは考えていきたいなと思います。(事務局)

●夜間も利用となると駐車場はどうなります？閉めます？(江藤委員)

- そこはまだ具体的には考えておらず、これからですね。(事務局)
- よく言われるのはホテルを見に来たお客さんが駐車場がないとおっしゃられて、うちも何も言えないです。(江藤委員)
- あの時は1時間かな、延ばしています(松本委員)
- 9時に施錠をしています。(東部土木センター)
- 8時だったのを9時ですよ。ホテルの時は1時間延ばしていますよね。(松本委員)
- 施錠ってしないといけないですか？そもそも。(星野部会長)
- 違法駐車が増える。(東部土木センター)
- 特に朝方が増える。(松本委員)
- そこに止めてお仕事に行かれるとか、結構多いのです。(東部土木センター)
- 一般客が迷惑します。(松本委員)
- そりゃそうですけど、そんなに便利な所ではないじゃないですか、駅前とかなら便利だけど。(星野部会長)
- 神水あたりだったら、市電に近いのですので、結構それは多いですよ。広木からだったら、ちょっと距離がありますが。(東部土木センター)
- 神水駐車場だったら市電まで歩いてすぐなんですよ。(松本委員)
- じゃあ郊外の方は神水駐車場まで来て、車を停めて電車で街中に行かれるケースがあるという。(星野部会長)
- そんなに変わらないけど違うのか。まあ値段も違いますよね。過去にも出てきましたけど、公園とかの維持管理に駐車場の有料化なんかも、本当はすごくある程度の収入にはなる。そういったことも含めて、有料化したら24時間でもいいね。だから夜やるとなると駐車場はどうするのかとセットで考えないといけない。(星野部会長)
- 公園の有料化って全国的にはありますか？公園を利用するための駐車場代って取られる所ってありますか？(松本委員)
- 福岡の大濠公園とかは有料だったと思うんですが。(東部土木センター)

- 大濠公園はあそこの公園に行かないで周りにも行くけんですね。(松本委員)
- お城も若干。(東部土木センター)
- 公園の種別にもよりますが、有料の所もあります。市内もあります。例えばスポーツ関係の公園は有料だとか。(事務局)
- 熊本ではないですよ。(松本委員)
- 二の丸をどうとらえるかですが。(事務局)
- 江津湖ってそのくらいの価値だということではいかないとダメだと思うんですよ。熊本城と二大なんとかという話もありましたけど。(星野部会長)
- 来る人を制限することにもつながりますよね。制限したいのか、来て欲しいのか、市民の為なのか、外から人を呼ぶ為なのか、健康増進の為なのか、環境保全なのか、そこがハッキリしないでどう議論しても反対側の意見で泡になって消えるというか。とにかく、江津湖を市民が使う事で健康増進をしたいんだって、一個テーマが決まっていればある程度他のことには目をつぶってでも推進力になるんですけど。一体的に全部見過ぎて、どの意見を拾いすぎてどこにも行けなくなって、ずっと同じところにいる。そこは市としては、どこが一番のテーマ目的ですかね。(若松委員)
- 難しい所ですね。観光拠点にしたいという思いもあります。国際観光重点地域に江津湖、水前寺地区を指定していきたいというのは市長のマニフェストにもあります。かたや市民の憩いの場としてですね、周辺には民家もはりついてありますので、そういった面で市民の公園といういろんな顔があるんですよ。それで、しかもおっしゃるようにターゲットを誰に絞っていくかで進め方も全く変わってきますけど、そこがまだ具体には定まっていないところです。今足りてないこととすると観光関連が弱いかなと思いますので、そこはもうちょっと強くしていきたいという思いはあります。強くやりすぎると、一方で人が沢山入りすぎてよかった自然環境が壊されるという、そういう逆の面もありますので、難しいです。あとは江津湖のエリアで分けて考えるとかも一つあると思います。(事務局)
- 下江津と上江津は違いますよね、色がね。一緒に考えない方がいいとは思いますが。(松本委員)
- 江津湖ってかなり広いですよ。観光で考えたら、当然出水地区と水前寺地区がメインになると思うんですよ。将来的にシェーンズ邸っていうのも水前寺の体育館跡の方につくることになっているみたいなので、結局そうなると成趣園という、今で言うとお城の次にある観光地である。その回遊性をどうするかですよ。地元では水を見せたい。要するに、プラタモリであったように、護岸からかなり水が湧いているんですよ。そういうのをよく見せられ

る様に出来るようにということで、今度も 14 日に地元の企業さんとかも含めて川の清掃をするんですよ。そういった形の効果の回遊構造ですね、市の方はどう考えておられるかもあるし、地元ではそういうふうになるように、努力は今やっているところです。(楠本委員)

●今日は地図がない(星野部会長)

●成趣園から江津湖に来られる方はほとんどいない。当然どこからか引っ張ってこなければいかんと思うけど。(松本委員)

●出水地区にある神水庭園とか、そこら辺だったら引っ張れると思うんですよ。以前、震災前に熊本商業高校さんがご提案された観光コースっていうのがあったんですよ。熊本商業高校さんが授業の一環としてされた時に一緒に回ったんですけど、句碑と庭園、上江津庭園とそこらへんを回るコースをご提案されてたんですよ。実際にその時はまだジェーンズ邸が以前の倒壊した所の場所だったんですよ。ちょっと違ったんです。今度からは水前寺体育館跡の方につくるので、それで成趣園から参道を通して川を見ながらジェーンズ邸に入って児童公園を抜けて神水庭園とかそっちの方に回れるようなコースが出来ればなと思っています。(楠本委員)

●まあ頑張って芭蕉園までね。(星野部会長)

●そうですね。はい。(楠本委員)

●最初お話があったのは回遊性、成趣園と江津湖をつなげるとすると南から出すのが近いけど、そうすると参道を通らなくなる。(星野部会長)

●そうですね。それを地元が一番今危惧しているみたいです。(楠本委員)

●参道を通して頂きながら、この川沿い。(星野部会長)

●そうですね。ただ、歩きながら川の湧水を見せるようなかたちができればと思っています。(楠本委員)

●一番上流端ぐらいですよ。湧水の所は。(星野部会長)

●そうですね。ちょっと先まで行くと水の量はかなり減りますので。(楠本委員)

●川の中をくぐれないかともよく言われていますよね。そんなことも含めてですよ。最初言われたことも関係するけど、回遊性というつながりですね。(星野部会長)

●進行していて耳が痛く聞いていたんですけど、まあターゲットを絞らんことには話が進まないですよ。難しいなと思いつつも、良く考えて現状を踏まえながら言うと、意外と出来る

かなという気もするのは全然違うから。言われているのは、観光客はまず水前寺ですよ。歴史がすごく色濃い所。あと、なんとなくみんなが現状をよく広く市民を集めてるのって下江津ですよ。つまり車で来るような市民。それで、もちろん行くけど上江津は自転車とか徒歩とかに特化してもいいのかなあと、公共交通含めて。意外と決められるかなというのを思っています。(星野部会長)

●感覚的に一民間企業として出るなら、うちがアウトドアの会社っていうのもありますけど、下江津に小さくても飲食などを出して、まあうちじゃなくても今回の取り組みの中で地代家賃の区分であるとか、イニシャルコストの部分を下からの補助が必要なのか必要でないのかもあると思いますけど、そこでチャレンジしやすいような環境っていうのをつくって、とりあえず一発目始めるということをやった方がいい。例えば、それで車の環境の問題とかでいうと、今世界的にはe-BIKE といって電気の自転車とか流行ったりするので、日本では色々な法規制があり、そのようなものがまだ根付いていないんですけど、熊本が日本最初にe-BIKE っていうものを開放する特区みたいな形で、熊本市内から江津湖へのアプローチまで提案してしまうとか、そういったことで車がどんどん来ると市民もいやだろうからそういうクリーンな動力で、ここに人を呼べるようにして、海外インバウンドの人も熊本市内の遊べる所から自転車に乗って江津湖、熊本の生活と自然みたいなものを見ることが出来る。そういう形でどうアクセスしていくかっていうことと、どう遊ぶかで、これからの江津湖を誰が中心になって考えていくのかという部分が、初めて決まってくるんじゃないかなと思うんですけど。(若松委員)

●ちょっとシルエットだから施策事業のイメージたたき案の中に「アクセスの改善」とかそんなのを入れたいなと。誰がやるかは難しいですけどね。施設の整備とか駐車場とかの対応とかあるじゃないですか、そこらへんの魅力としての向上の中に、アクセスの問題も入れましょうよ。入れる方向でちょっと検討してもらっていいですか。これ事業主体は誰とかも考えないといけないし、具体化もせんといかんですよ。(星野部会長)

●そうですね、園内ばかりですよ、公園内ばかりが出ていますので、確かにそこまでどうやって行くのか。(事務局)

●確かに今までもアイデアの中に、モビリティの問題とか出てましたよね。その中でも含めて、水道も含めて、それが今ちょっと消えてる感じがするかも。(星野部会長)

●今、その園内の回遊性向上っていうオレンジのところ少しそういったものが入っています。(事務局)

●それが今おっしゃられたように熊本でしか体験できないとか、日本初とか、そういうのがあるとやっぱりいいですよ。電動キックボードをよく、僕はヨーロッパの街中で使っていたんですけど、めちゃくちゃ楽で30km/hくらい出るんですよ。だからすごく危ないらしい。向こうはけっこう自転車道が整備されているからで、だからそこを使えばいいけど、あれ日本では公道では無理なんですよ。こういう公園の中だったらとかいうのはあるかもしれま

せん。話の流れが変わってもいいので他何かありますか、堀口さんとか何かありますか、体育館とかですかね。(星野部会長)

●私は4月から総合体育館の館長で、今までの経緯は分からなかったのですが、ちょうど企画で、ウォーキングをするのとかやっていたんですが、それは公園の方でイベントが有る時はお手伝いをするとか、今もやっているんですけど、確かに江津湖のお客さんがうちの方の利用者の方に流れて来ているので、そういったのはうちの方でアンケートをとったり、江津湖公園をどういうふうに改善していったらいいかっていうのを、利用者の方にアンケートをとるとかそういった方法はあるかと思います。(堀口委員)

●実際公園で遊んだ人が体育館に来たり、体育館であれして公園に遊びに行ったりとかあるんですか。(星野部会長)

●あると思います。総合体育館駐車場は、江津湖の公園のも兼ねているんですよね。江津湖の方も確かに来られているので。(堀口委員)

●正直、僕も子どもが小さい時は体育館の駐車場に車を止めて、江津湖に遊びに行っていました。もちろん図書館にちょっと寄ったりして。(星野部会長)

●そういうところでちょっとご協力して、統計をとることは出来るんですけど。(堀口委員)

●逆に言うと体育館サイドから、江津湖とこう連携出来たらいいなとか、過去も健康系の話なんかは堀口さんの前任者が関係してたと思うんですけど、他ありますか。最近入ってなかなかあれですけど、宮脇委員どうですか。(星野部会長)

●すみません、なかなか意見を出せずに。先ほど言われた江津湖の周りからの、私も一年くらいだからあれなんですけど、「江津湖の魅力と合わせて」と言われた街の飲食店で、例えば中でカフェが置けないんだったら、近くにパンであったり魅力的なカフェをそういうマップとか使って、そこで買って中で食べるということもあるでしょうし、そういう分かりやすさがこちらに生活し始めてなかったんで、そういうちょっと道しるべみたいなのがあるといいなと思います。生活しながら江津湖に行ってそう思いました。周辺と合わせて、江津湖の環境と合わせてです。(宮脇委員)

●それとですね、難しいでしょうけど、浚渫工事なんかは全然考えてらっしゃらないですよね。行政としては、浚渫さえすれば江津湖の水はものすごくきれいには1回はなるんですよね。(松本委員)

●それはどちらかと言うと河川側、環境側？(星野部会長)

●河川も、環境も、当然関係機関等の協議を経て、生物多様性の保全の問題がやはりあるし、過去に下水道が整備されていない時期に関してはヘドロ除去とかが40年代はされていて、

今は水質関係も下水道が整備されて、だいぶ環境基準を下回るような BOD になっているところ。なので河川課としては、治水安全を一番に考えてまして、当然必要性があれば浚渫は今後短期とはいえず、中期・長期とかあり得ると思います。今後、関係機関と協議をしながら現地をいろいろと調査をして進んでいくのではないかと、個人的な意見としてはそのように思います。(河川課)

●でも環境の人たちと話をすると、浚渫はなかなか諸刃の剣みたいなんですよ。すごく丁寧な議論。(星野部会長)

●下江津は 1 回、10 年くらい前でしたっけ。(松本委員)

●上江津じゃなかったですかね。(東部土木センター)

●下江津もやっていますよね。サイクリングロードの方に土を持って行ってますからね。(松本委員)

●よく言われるのが、あの時に一律で掘削したので、それによって貴重な生物が無くなったりとか。また、そこにヘドロが溜まって余計に濁ってきたという話もあります。前回の協議会の中で、浚渫を過去 20 年おきくらいずっとやっているんですよ。その時の効果だったりとか影響が何があったのかというのがきちんと調べて下さいといったような宿題は我々も頂いたところで。古くてそのへん今調べきれないという段階ですけど。浚渫が必要というのは恐らく皆さん必要だという認識はあると思うんですね。確かにやった方がいいと。ただ、行政の河川側から言うとお金がかかったりしてなかなか難しい面もあり、環境側から言うとなんかそれによって悪い方向に働くのではないかとということもあります。(事務局)

●要するに、上江津のあのきれいな水が出来る限り下の方までくれば、江津湖の魅力って全然変わってくるので。(松本委員)

●下江津は急に汚くなっている感じ？(星野部会長)

●いや、途中からですね、江藤さんのところぐらいからだいぶ悪くなる。あの上は良いんです。(松本委員)

●中の島前後で変わる？(星野部会長)

●あの中島の影響はあると思いますけど。分かれ道で。(松本委員)

●水深はどれくらいですかね。(星野部会長)

●浅いです。うちの近くですけどね。見た感じ浅いんですけど中に入ると腰まで入ります。ヘドロもだいぶ堆積してるんでしょうね。(江藤委員)

- 確かにヘドロが見えたり、汚い、臭うというのは最近あるんですけど、水質基準でいうと昔より良くなっているんですよ。（事務局）
- 加勢川に入るところと江津斉藤橋と下江津橋の3箇所は、水保全課の方で公共用水関係の調査をされて丁寧なされてるんですけど、環境基準を全然下回っている。水の水質上はきれい、見た目と違って。（河川課）
- なんであんなに透明感が無いんですかね。（松本委員）
- 下に溜まっているからというのが市川先生がよくおっしゃられていますが、結局浚渫したところに上から来たのがドバツとかぶって、結局河川ですのでそこからどんどん入ってきて大雨の時に溜まって、それが汚く見えるという話しは聞きますけどね。（事務局）
- 環境の方は抜本的なところにいくと、そういう議論にはなると思う。結局はそちらを止めるわけにはいけないからですね。（星野部会長）
- そうですね。（事務局）
- 例えばキンピールさんとかは、いろんなこういう公園とか、河川を見ていて、他の事例からアドバイスできる場所とかありますか。（星野部会長）
- 公園などこのへんの知見はそんなに持ってないです。（宮脇委員）
- 頑張ってもらってキンピールさんにも沢山ですね。どうですか他はいいですか。市役所の皆さんなんかも、まちづくり系の話を聞きたいんですよ。特にアクティビティ部会なんで。（星野部会長）
- 秋津からすると本当に近いので身近な公園の一つであってそこに何かを求めているということは無いですね。（秋津まちづくりセンター）
- 周辺住民目線ですね。（星野部会長）
- 近くの公園のちょっと大きい版で、ちょっと学年のいった子が自転車で行けるようになって、遊ぶ場所が要するに広い場所みたいな感じで、そこに何かを必要以上に逆に求めてはいないと思うんですよ。でも逆に休みの日とかに人が集まっているのを見ると、どこからこの人たちは来ているのだろうと、近くにいる人間は思っている感じですね。やっぱりどっちかという散歩コースであったりとか、特別な物を求める場所という意識はないですね。（秋津まちづくりセンター）
- 特別なものがないからですよ。（松本委員）

- 無いことはないよ。(星野部会長)
- だから上だったら歴史をもうちょっと重点的にしたい。こっちだったら健康器具を置いたりそういう使い方。(松本委員)
- 下の方に来ている人は運動系、運動はしたい。ちょっと遊びたいと思って来ている人がほとんど、見てても感じるし、話してても感じると思います。(秋津まちづくりセンター)
- まず、地域住民からすると、本当に普通の近くにあるいい場所みたいなので、特に、というかトイレが汚いとか街灯が割れたとか、日常的な文句はあるにしても、それ以上のってことはなかなか出てこない。そりゃそうですよね。そうとう贅沢なことだとは思いますが。私は出身が関東ですので「何を贅沢な」と思わないでもないですけど。(星野部会長)
- それも一つの江津湖の特徴ですけど、まちなかの公園ということで。(事務局)
- いいところだとは思いますが。あともう一つ、空間構成上でちょっと課題かなと思ったことは、体育館、上江津もそうですがあって、健康づくりも広木でありたいって、そこが離れているっていうのは意外と問題だなと思ったけど。連携がしづらいなと思ったけど。(星野部会長)
- 体育館は体育館の中で、屋内でやるんだろうし。(松本委員)
- バラバラになったらもちろん問題はないけど、相乗的な連携効果が。(星野部会長)
- 上江津の所も周回のできる場所がありますね。(事務局)
- 歩いてはある。コースとしてはあります。健康器具とかは別スペースがないですよ。(松本委員)
- 今日は健康づくり推進課が来てないんですけど、本当は内部的にもそういったテーマはあがっているんです。これからどんどん高齢化社会が進展していくし、やっぱり健康づくりは必要。江津湖をつかって健康づくりをして、それを機にいろんな多世代と交流するとかというのも一つあった方がいいのではないかというのは、提案として挙がっています、今内部では。健康はこれからの一つのキーワードになると思います。あとは体育館さんもあるので、そこと連携できるとさらにいい。(事務局)
- ゾーニングみたいなのは、今から決めていくような感じですか。(宮脇委員)
- そうですね。これから、それこそどこに何があつてとかいうのも押さえた上で、ゾーニングをやっていく必要があるかなあと思っています。(事務局)

- この会議の時に、例えば大きめのものを皆で見ながら、ここにバーベキューとか、地図を広げてですね、ココとココの距離がどうだとか、出しながら、こうしたいよねとか、共通のものを見て、共通の問題とかを出したり、ココに何があるとか、ゾーニングのアイデアというものはけっこうすごく出ているので、そういうものをプロットして、課題とかを共有した方が前に進む気がします。(宮脇委員)
- 合同部会をはさみますけど、もう少し口の字の会議ではなくて、大きなテーブルを用意したワークショップ的な、まあテーブルを分けてもいいし、ワークショップ的な会をしましょうか。(星野部会長)
- 大きい絵を置いて、机を囲んでですね。(事務局)
- みんなで一つは囲めないで、グループを分けて(星野部会長)
- ブレインストーミングみたいなもので、ポストイットみたいなものでどんどん意見だけを重ねていくようなイメージですね。(宮脇委員)
- 今の予定でいきますと今月の 18 日に合同部会。来月の 19 日にもう一回合同部会。その一週間後に親会議をする予定ですので、それまでとか、若しくは合同部会の中でテーブルを分けて。合同部会と言いながらも別々でこうテーブルで意見を出し合いながら書くとか。あと 2 回部会はもう既に予定が入ってます。例えば、今度の合同部会はみんな来るんですけど、それぞれテーブルを分けて大きな円で囲んで(事務局)
- 場所が広いので環境と、アクティビティとでそれを同じような形で作ってみて。(秋津まちづくりセンター)
- どちらが良いのでしょうか。1 時間くらいそれで 1 回やってみて、残り 1 時間で出し合って話すか、最初っから混ぜた形で何テーブルかで議論するのか。(事務局)
- 混ぜた方が面白いかも、18 日にそれやってみようか、みんなで。8 月の目標は骨子案ですね。(星野部会長)
- そうですね。(事務局)
- おそらく 8 月 19 日の 1 週間前の合同部会は協議会の事前みたいな感じですね。(星野部会長)
- そうですね。(事務局)
- 合同部会をワークショップ的にやりましょう。いいですかね。なので今日、結局ですね、た

ぶん今日皆さんとお話を聞きながら、ターゲットを絞った議論をしなきゃいけないけど、一方で江津湖をひとくくりで拾っているから、ゼロイチの話みたいになっちゃうからゾーンとか具体的な場所とターゲットを絞っていけば、十分共存の形もあり得るだろうというのが私の印象です。それともう少し周りを含めながらアクセスとかも考えていかなきゃいけないので、そういう意味でもテーブルに座ってテキストで文字で話す段階ではないということだと思うので、合同部会はもう一人の部会長に提案してもらって、少しワークショップ的にやってみて、具体のゾーニング案とか。だからこちらに書かれているようなことをしっかり具体的に展開するとどうなるかの、シミュレーションみたいなものをみんなで作ってみようということですよ。だから、例えば環境の方からするとビジターセンターが欲しいというのはどこにあるべきかとか、その上はどうするのか、という問題はあるのですが、その時に周りはどうするべきかとか。という感じで進めていきたいと思います。是非次回頑張ってください、皆さん。多分、行政にお金があれば、人も何も入らずに環境だけを保護するというのも可能だと思うんですけど、そういう時代ではないし、昔は人が入れば環境を壊すという形だったと思いますけど、僕らもある種のリテラシーも上がってきて、あるいはリテラシーを上げないといけないので、他の問題とかも含めて人が入らないと環境が守れないということだと思うんですよ。そういうところかと思います。いいでしょうか。他は何かありませんか。(星野部会長)

●何かありましたらメールでもお知らせください。(事務局)

以上